

1



令和6年度 3学年進路講演会Ⅱ

今後の進路指導について

群馬県立太田女子高等学校
進路指導部 齋藤 伸光

本日の内容

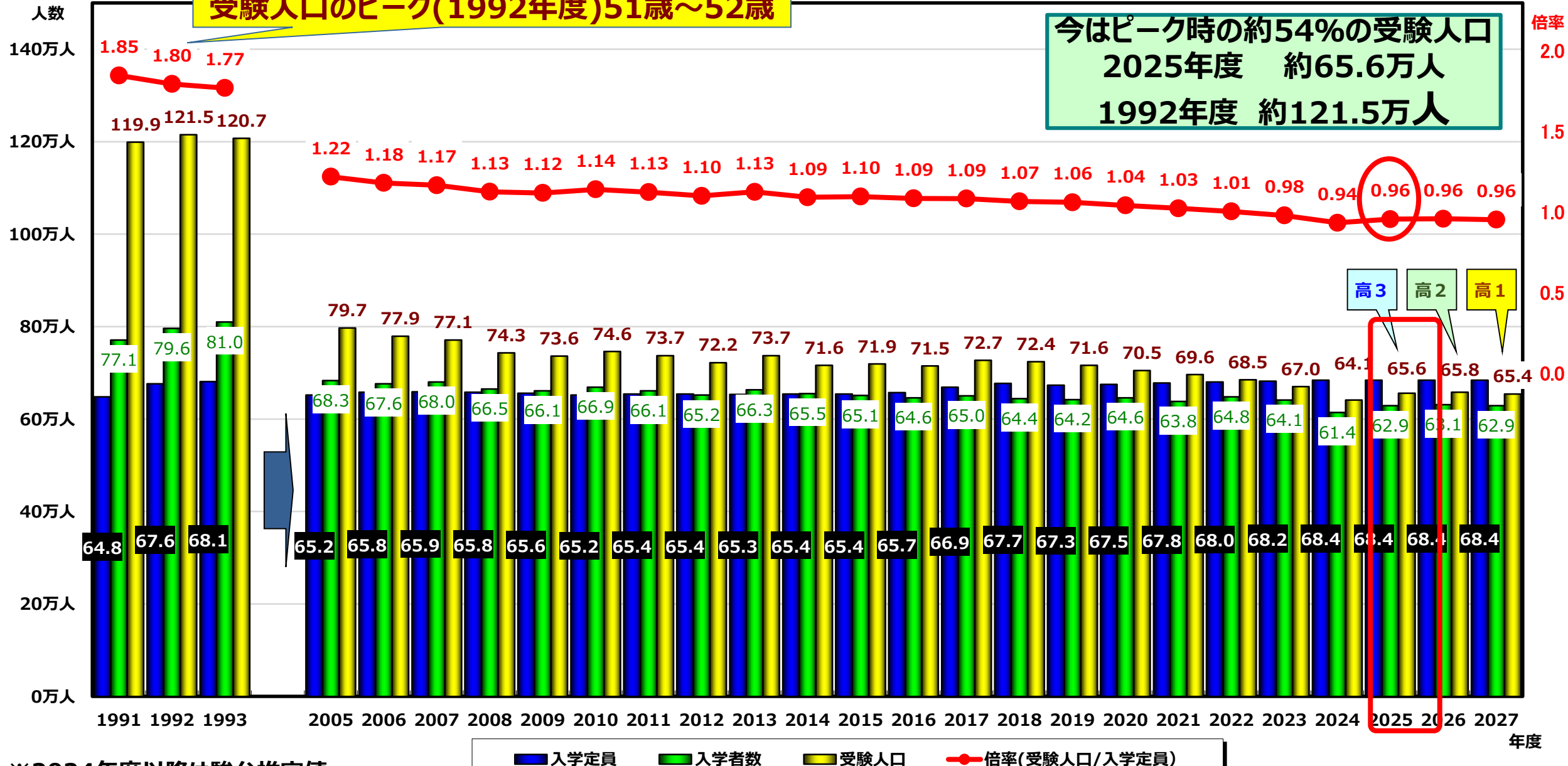
1 確認

2 今後について

3 まとめ

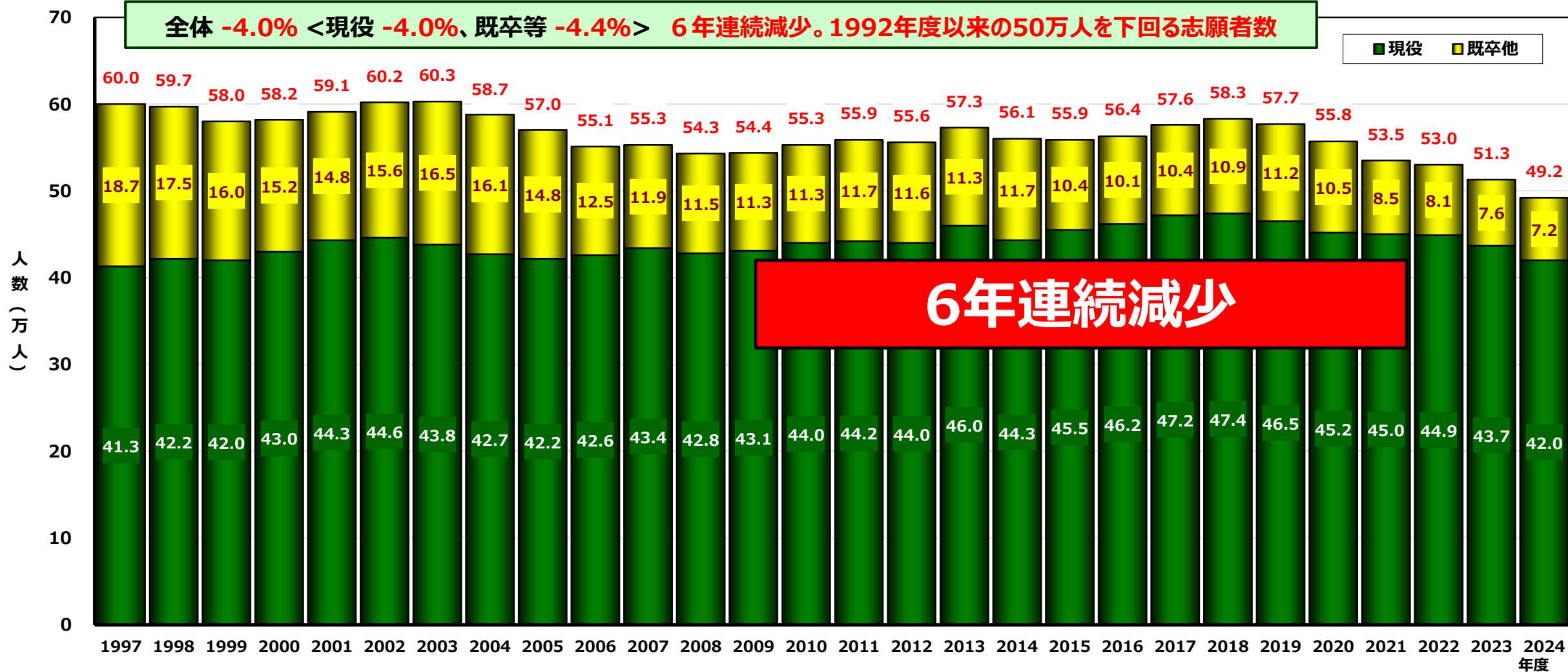
受験人口のピーク(1992年度)51歳～52歳

今はピーク時の約54%の受験人口
 2025年度 約65.6万人
 1992年度 約121.5万人



※2024年度以降は駿台推定値

全体 **-4.0%** <現役 **-4.0%**、既卒等 **-4.4%**> **6年連続減少。1992年度以来の50万人を下回る志願者数**



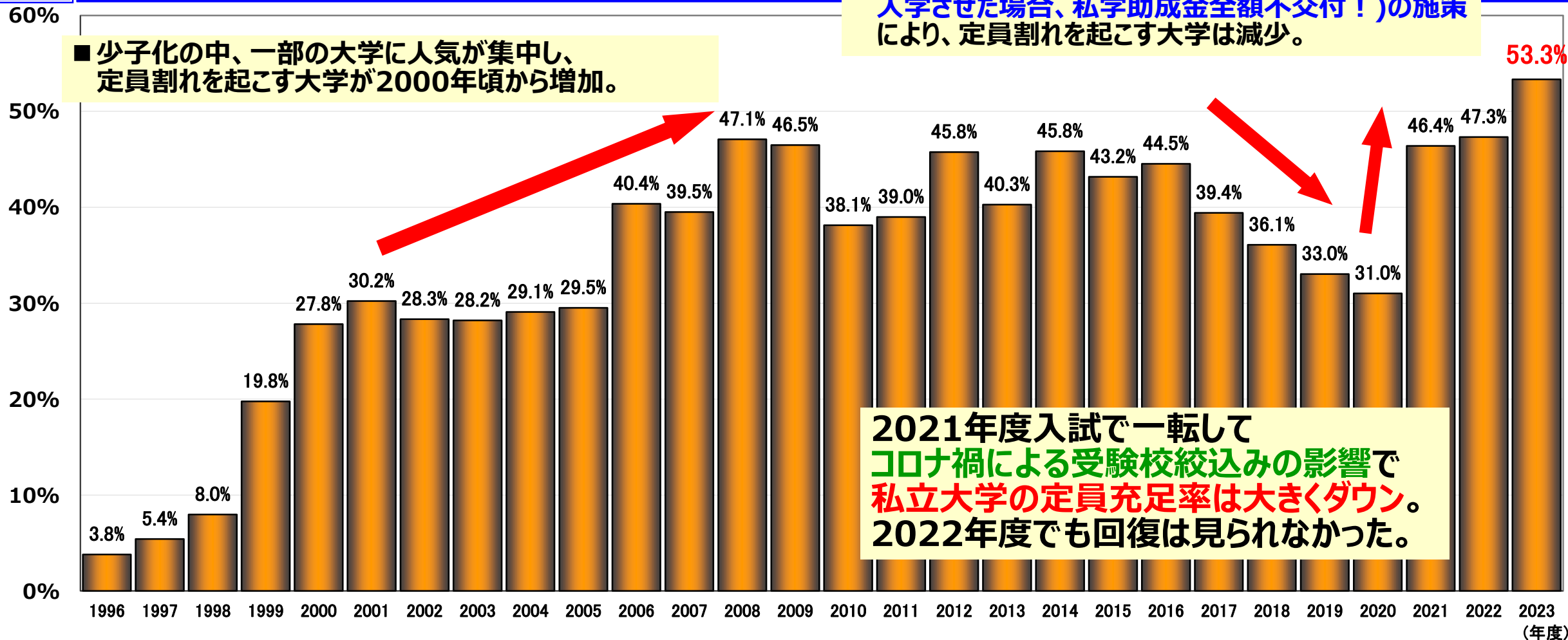
6年連続減少

- 現 役・・・高校卒業見込み者数の減少率とほぼ同じ減少率、都市部では「**共通テスト離れ**」も見られる。
- 既卒等・・・**コロナ禍(2020年度)以降では減少率は最小**、コロナ禍の収束により、強い浪人回避傾向が収まる。

定員割れした私立大学の割合の推移

■ 2017年度入試以降、大規模大学の入学定員の厳格化(定員を超過して入学させた場合、私学助成金全額不交付！)の施策により、定員割れを起こす大学は減少。

■ 少子化の中、一部の大学に人気集中し、定員割れを起こす大学が2000年頃から増加。



2021年度入試で一転して
コロナ禍による受験校絞込みの影響で
私立大学の定員充足率は大きくダウン。
2022年度でも回復は見られなかった。

- 入学者数が定員に達しなかった私立大学の割合は、**2023年度は53.3%にアップし**、ついに5割を上回った。
- 2017年度入試以降、大規模大学の入学定員の厳格化の影響により、定員充足率はアップしてきたが、2021年度入試で一転してコロナ禍による受験校絞込みの影響などで、定員充足率は大きくダウンし、2022年度も回復は見られず、**2023年度はさらにダウン**した。(おそらく、2024年度もさらにダウンが予想される。)

■ 2万人の再受験生？

直面する「**困難**」から「**安易な方向**」に逃げて、
結局は、「**大きな回り道**」をしていることの**ムダ**！
2022年度も減少傾向だが、それでも**1.9万人**！

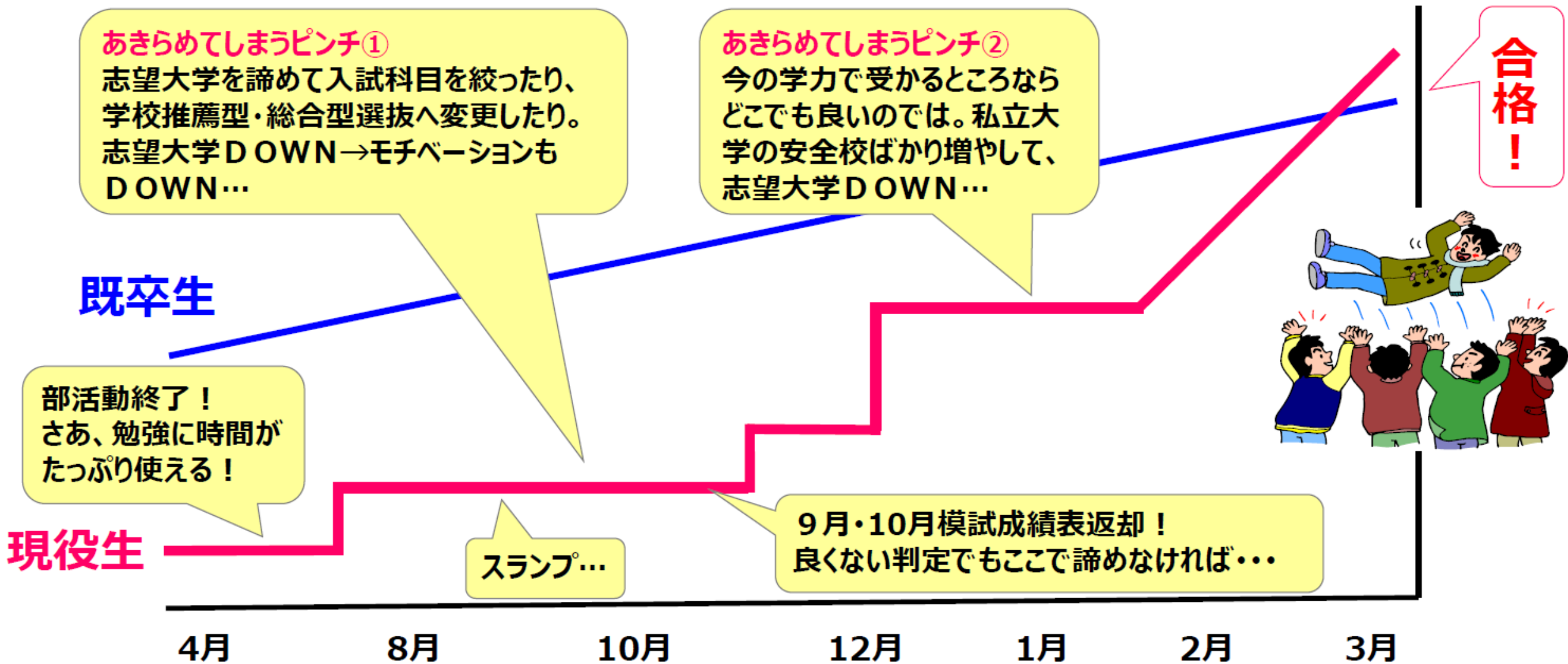
■ 大学・短大志願状況（※文部科学省集計データより）

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
(A) 大学・短大志願者数	71.5万人	72.7万人	72.4万人	71.6万人	70.5万人	69.6万人
(B) 大学・短大入学者数	64.6万人	65.0万人	64.4万人	64.3万人	64.6万人	63.8万人
※大学不合格者数 (C) = (A) - (B)	6.9万人	7.7万人	8.0万人	7.3万人	5.9万人	5.8万人

■ 翌年度大学入学共通テスト(旧センター試験)志願者数(※大学入試センター発表より)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
(D) 純粋な既卒生志願者数	9.9万人	10.4万人	10.7万人	10.0万人	8.1万人	7.7万人
※再受験生 (D) - (C)	3.0万人	2.7万人	2.7万人	2.7万人	2.2万人	1.9万人

あきらめない受験勉強こそ成果につながる。



偏差値別退学率

偏差値	私立	国公立	合計
39	17.2		17.2
40-44	16.9		16.9
45-49	11.6	6.7	11.5
50-54	8.0	3.8	6.8
55-59	6.0	3.6	5.0
60-64	3.4	1.6	2.9
65-69	3.2	2.4	3.0
70以上	3.0	1.5	2.2
平均	11.0	2.9	9.4

資料出所：清水（2013）より引用 偏差値はベネッセによる。

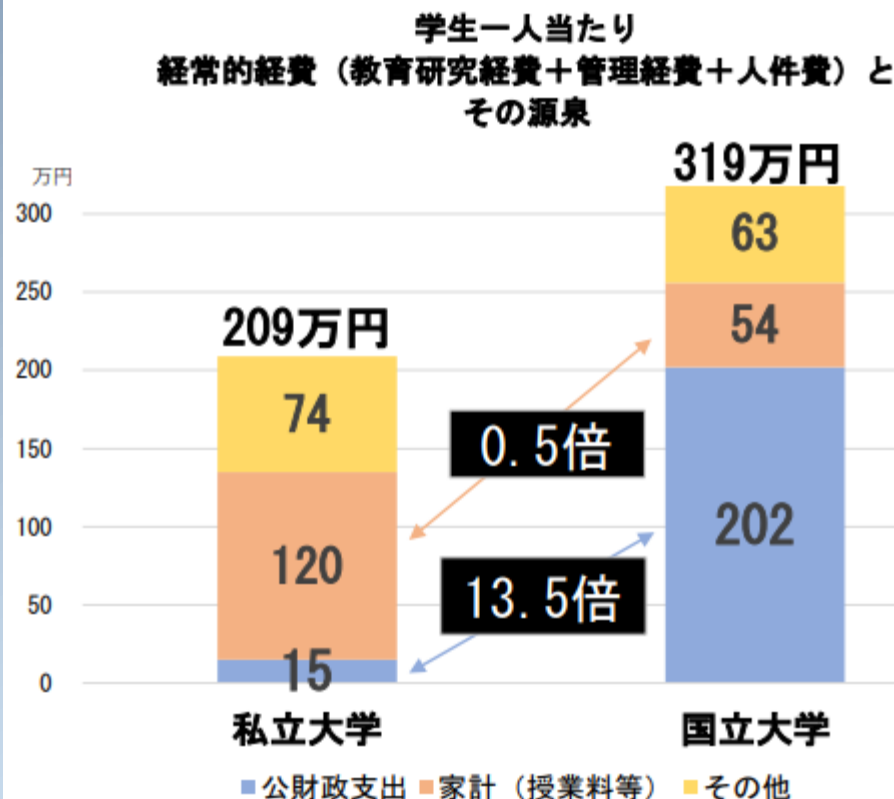
退学率は 2008 年度入学から卒業（2012 年）までの期間

●偏差値の低い大学ほど
中退率が高い

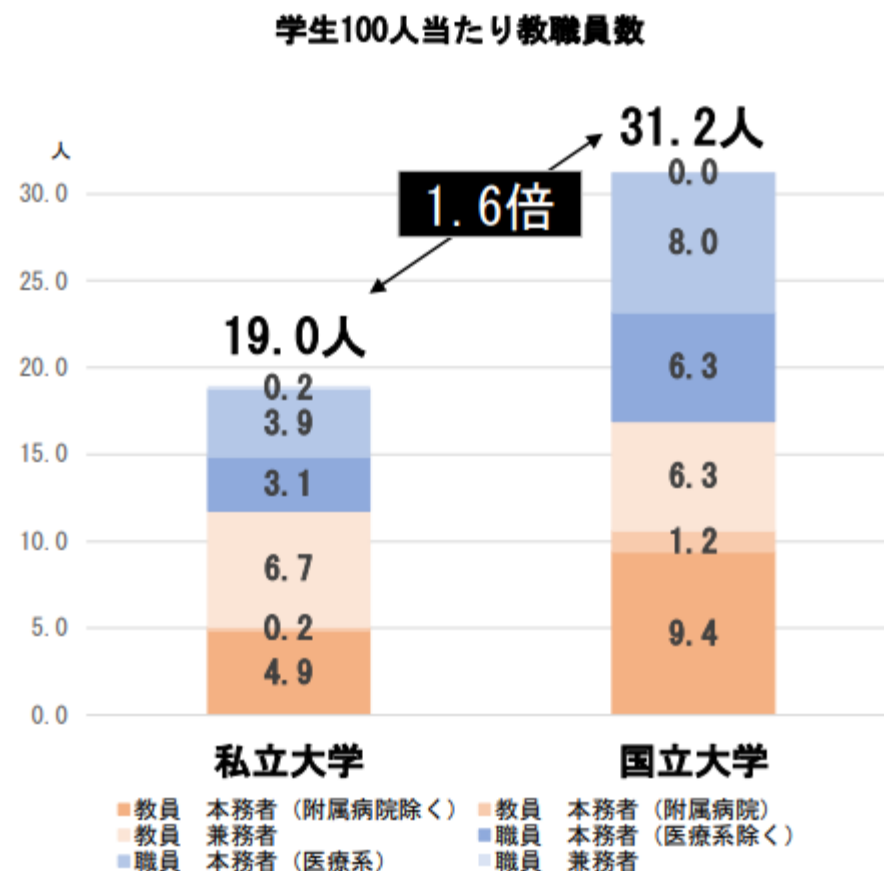
●偏差値44以下の大学の
中退率が特に高い

●平均値で比較しても中退率は
私立大学で**11%**、
国公立大学で**2.9%**と
顕著な違いがある

独立行政法人 労働政策研究・研修機構「大学等中退者の就労と意識に関する研究」より



※ 教育研究費、管理経費並びに人件費は『文部科学統計要覧(令和3年版[2021])』による。
 ※ 公財政支出は、「国立大学」は、各法人の『決算報告書』(令和元年度)における「決算額」の「運営費交付金」「施設整備費補助金」「補助金等収入」「大学改革支援・学位授与機構施設費交付金」の合計。「私立大学」は、『今日の私学財政(令和2年度版 大学・短期大学編)』(令和元年度数値)「大学法人」の「事業活動収支計算書(大学部門)」の「経常費等補助金」と「施設設備補助金」の合計。
 ※ 「家計(授業料等)」は、「国立大学」は標準授業料、「私立大学」は『私立大学等の令和元年度入学者に係る学生納付金等調査結果』(文部科学省)による(施設設備費を含む)。



※ 『学校基本調査(令和2年度)』による。

- 公財政支出は、国立大学（202万円）よりも私立大学（15万円）のほうが13.5倍少ない。
- 家計負担（授業料等）は、国立大学（54万円）よりも私立大学（120万円）のほうが2.2倍大きい。
- 人的資源（学生100人当たりの教職員数）は、国立大学（31.2人）よりも私立大学（19.0人）のほうが1.6倍少ない。
- 私立大学の教育研究を支える基盤的経費に対する支援の充実が不可欠である。

1 確認

- ・不本意入学をしない、させない
- ・受験生も志願者数も既卒生も
少ない2025年度入試は
最大のチャンスでもある
- ・受験をしないと合格はない

2 今後について

- ・志望校、受験校を明確にする

国公立大・・・志望校群を選定

私立大学・・・受験校を選定

この時点でホテル等の予約を検討する場合もあるようですが焦らず慌てず

2 今後について

- ・志望大学の受験方式を確認
総合型選抜、学校推薦型選抜、
一般選抜（方式や日程）

受験資格等の確認
資格試験等の活用状況

2 今後について

- ・総合型選抜、学校推薦型選抜の出願について

別紙の日程のとおり行いますので
ご確認ください。

※担任とよく相談をしてください。

2 今後について

- ・第一志望大学に合格するために、
この夏休みやるべき事を明確にする！
→ 基本的には弱点の克服
（スタディサプリの活用など）
- ・成績はこれから伸びる（伸ばす）
大切なのは、最後まで諦めずに
努力を継続すること！

2 今後について

- ・共通テスト出願

8月1日～ 配慮申請等（HP参照）

9月上旬 願書配布

学校にて説明実施

9月中旬 願書提出（学校）

2 今後について

- ・10月から模試を多数受験
気力と体力が必要
→ここを乗り越える事が重要！
- ・12/9～ 三者面談
私立大学は確定→出願
国公立大学は志望群の確認

3 まとめ

- 大学受験は、高校受験とは比べものにならないほど大変です。どこまでやってもゴールが見えず途方に暮れてしまう生徒も少なくない。その中で科目を絞ろうとか、受験科目の少ないところに志望校を修正しよう、こんな思考に陥ってしまいがちです。しかし、受験生は誰もが同様の思考に陥るわけですから、粘った者にこそチャンスは訪れます。

3 まとめ

- 受験勉強はその「過程」にも重要な意味が込められています。受験のために膨大な知識を覚えなければいけない。そして、それを可能にするにはどのような工夫が必要か…。その方法を試行錯誤し、時に勉強法の本や合格体験談を読みあさり、その中から自分にあった方法を生み出し、アレンジしたりする。時には挫折し反省しては方向転換を繰り返し、再度挑戦し目的を達成する。その「過程」、つまりは「問題解決能力」の育成こそが、受験勉強の裏に隠れた「最たる目的」の1つではないかということです。このように、受験は大変ですが、人として成長する絶好の機会です。その機会をみんなで大切にしましょう。

3 まとめ

- ・受験に正解はありません。だからこそ生徒と保護者、教職員が協力をして立ち向かっていくものだと思っています。

ぜひ頑張らせて下さい。

そして、見守って下さい。

よろしくお願い致します。

Where there is a will,
there is a way.



自分の道は自分自身でしか拓けない

ご静聴ありがとうございました

令和7年度入試「学校推薦型選抜」「総合型選抜」について

群馬県立太田女子高校 進路指導部

【学校推薦型選抜入試】 ※原則書類の提出は朝担任へ提出する

1. 日程

- ① 「学校推薦型選抜（指定校）一覧」を教室に掲示 8月29日（水）朝のSHR
 - ② 学校推薦型選抜（指定校）一次申込み受付期間 9月2日（月）～9月6日（金）
生徒：「申込書」→ 担任 → 学年主任（「一覧表」作成）
 - ③ 学校推薦型選抜（公募）一次申込み受付期間 9月9日（月）～9月14日（土）
生徒：「申込書」→ 担任 → 学年主任（「一覧表」作成）
 - ④ 第1回推薦選考会議 9月19日（木）16:00～校長室
 - ⑤ 第1回推薦内定者への指導 個別に対応
 - ⑥ 出願指導、推薦書・調査書作成 10月上旬～
生徒：「誓約書」を先に提出 → 担任 → 学年主任 ※ その他の書類は担任と作成
 - ⑦ 面接指導、小論文指導 10月中旬～
 - ⑧ 合格者への指導 12月中旬以降合格が決定次第
- ※ 公募制で推薦枠のある大学（筑波大、群馬大、金沢大、埼玉大等）について
希望者が出た時点で朝会で確認後全クラスに周知し、潜在的な希望者の出願漏れのないようにする。

※ 上記日程以降は、随時担任に申込書を提出する。【10月1日（火）二次申込み締め切り】
学校推薦型選抜（指定校）については二次締め切りで終了

原則出願3週間前までに「申込書」を提出する。年内出願は10月8日（火）申請締切とし、
年明け出願については12月上旬とする。

2. 各選抜を希望するうえでの留意事項

- ① 「申込書」は保護者承認印が必ず必要である。
申込書を提出する前に必ず生徒と担任で募集要項を確認する。
- ② 申込者は当該大学・学部・学科を第一志望とし、「申込書」を提出した者は、校内選考で出願が認められた場合、「誓約書」を提出した上で必ず受験し、合格した後は必ず入学しなければならない。合格後は当該大学・学部・学科以外に受験をすることはできない。
なお、大学入学共通テストは受験すること。
- ③ 受験後は、可否にかかわらず「受験報告書」を必ず提出すること。
- ④ 合格が決まり大学入学後は、学業に励み、しっかりとした大学生活を送ること。大学では入学者の追跡調査を行っています。今後の指定校等の存続に関わることを認識する。

【総合型選抜入試】 ※原則書類の提出は朝担任へ提出する

- ① 事前に保護者、担任との相談のうえ原則出願3週間前までに「申込書」を提出する。
- ② 当該大学・学部・学科を第一志望であることが出願条件である。「誓約書」を提出した上で、合格した後は必ず入学しなければならない。ただし、併願可能な総合型選抜についてはその限りではない。受験後は「受験報告書」を必ず提出すること。なお、東北大AOのように総合型選抜でも学校長の承認（公印）を必要とする場合は学校推薦型と同様の手続きを行う。